

## 東洋学文献類目データベースの研究と開発†

星野 聰<sup>††</sup> 勝村 哲也<sup>†††</sup>

本論文では検索システム FAIRS を利用して作成された東洋学文献類目データベースの研究開発を扱い、データベースに格納された東洋学研究上で有効な諸情報について述べ、書誌階層構造とこれを会話的に検索するため検索システムに結合された自動的孫引きのためのプログラム、冊子体への編集等を述べている。

### 1. はじめに

東洋学文献類目は京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センターから毎年刊行されている東洋学関係の文献目録書である。同書は東洋史研究文献類目として昭和9年より逐年編纂されてきたものを受けつぎ、東洋学文献センターの設置に伴って昭和38年版から東洋学文献類目と改称され今日に至っている。

ところで、近年東洋学関連の文献数が中国の学界、出版界の状況の変化等により急速に増加しつつあるため目録をデータベース化して編集の機能を高め、かつ多くの研究者が文献を迅速に検索できるようにしたいという要請が生まれてきた。従来の冊子体はデータベース内の目録データを適当な順序に排列して作製できる。

今回、われわれは京都大学大型計算機センター設置の FACOM M 382 システムで、検索システムに富士通による FAIRS<sup>1)</sup> を使用して東洋学文献類目データベース（以下 RD と呼ぶ）を作成した。本論文はとくに新しい検索技法を提案するものではないが、東洋学関係の研究に役立たせるための工夫について述べている。すなわちたとえば、検索されたレコードと関連があるレコードを含めたオンライン検索・出力を行わせるためのプログラムを作成し、検索システムと結合した。また、主題の分類、年代、地域等の情報を格納したが、これらは検索に、また冊子体作成の際の排列に有用なことを示した。

### 2. 東洋学文献類目データベース (RD) の特徴

本 RD は東洋学に関する文学、歴史、哲学等の分野

にわたる内外の学術的な文献目録データを収めるもので、以下にそのおもな特徴を述べる。

まず、分類、地域、時代など文献の主題に関する情報を有していることである。これらは従来は冊子体目録に印刷する際に排列順序をきめるため必要であったが、この種の情報もデータベースに格納したので、排列のためだけでなく検索にも利用できることになった。したがって、現在はシソーラスを作成しキーワードをつけることは行っていないが、和中文、欧文ともに地域、時代等を特定して目録データを検索でき、その有効性が付録に示されている。RD のレコード内のフィールドの種類と内容を付表 1 に示す。

RD の目録レコードは単行書に対するものだけでなく、雑誌論文も対象としており、これらをまとめて文献と呼ぶ。論文には他の雑誌論文または単行書を批評する論文も含まれる。この種の論文を批評論文と呼び、単行書を批評する論文と雑誌論文を批評する論文を区別する場合は書評および論文批評と呼ぶ。

RD のレコードを一意に識別するために付けられた番号をコントロール番号と呼び、以下 CN と書く。批評論文レコードは一般の論文レコードと異なり、特定のフィールド L に批評される単行書や論文レコードの CN が格納されている。フィールド L の値はリンク番号と呼び LN と表す。

われわれは、ある論文集合が与えられたとき、関連する批評論文を和中文、欧文を問わず検索・表示するために自動的に孫引き\* をするためのプログラムを検索システムと結合させている。これが RD の第 2 の特徴である。その他の RD の特徴としては、(1)多言語の扱い、(2)漢字データアクセスのための配慮、(3)排列のための情報とその利用、(4)書誌情報間のリンク、(5)定義ファイルの利用、(6)冊子体目録の作成、がある。これらにつき以下に説明する。

† Database Research and Development of Annual Bibliography of Oriental Studies by SATOSHI HOSHINO (University of Library and Information Science) and TETSUYA KATSUMURA (The Documentation Center for Chinese Studies, The Research Institute for Humanistic Studies, Kyoto University).

†† 図書館情報大学図書館情報学部

††† 京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター

\* 孫引きの概念は新しいものでなく、引用索引 (citation index) により引用文献を検索しようとするのと同じである。

### 3. 多言語の扱い

東洋学関係の書誌データには漢字、カナ、ハングル等、東洋の言語の文字が含まれるだけでなく、東洋学研究は各国で行われているので、英語、ロシア語など各種の言語の文字も扱う必要上、漢字ターミナルの利用は不可欠である。RD ではデータ作成時に文字はすべて漢字モード（2バイト/文字）で入力し、計算機可読形ファイルを作っている。しかし、利用者が RD を検索するとき漢字モードのデータを直接アクセスするのは不便であるから、EBCDIC コードで表現できる文字のみから成るフィールド（巻数、ページ数など）については漢字コードデータのフィールドは設けずに EBCDIC コードに変換したフィールドだけを作成している。しかし、欧文目録がすべて EBCDIC コードで表現できるわけでない。東洋学文献類目では原則として原著の記載どおりに採録するので、たとえば表題中で主題語のみ漢字が用いられている場合がある。

著者、編者については、フィールド Z の 1 桁の数字により、日本人名、中国人名、朝鮮人名、欧米人名、ロシア人名を区別した。団体名についても同様である。日本人名についてはフィールド F にカナ読みを 1 バイトモードで格納している。これらは冊子体にするとき人名・団体名索引の排列の際に用いられる。また、人名および表題で EBCDIC コード化できるものは変換しておおのフィールド A2, T2 に入れている。これは EBCDIC コードのみ入力できるターミナルを活用したいからで、漢字、EBCDIC 両モードがレコード内に混在するのが RD の特徴である。

### 4. 漢字データ・アクセスのための配慮

データベースの漢字データを検索するには種々の配慮が必要である。漢字で成立ちが同種の文字は一つの文字種とみなし、この内から代表字を定める。一つの代表字には一般に字体が異なる文字（異体字）がある\*。漢字には旧字体、教育漢字体などの字体があり、各字体ごとに文字コードが異なる。原著に記された漢字を字体の違いを考慮してその文字コードを入力するのは原文に忠実であるという点で意味があるが、検索者は原著に表記された字体を知らないのが普通であり

\*一つの字体には種々の書体があるが、書体の異同は対象としない。本 RD で標準的に扱っている文字は 10,538 種、このうち代表字は 8,689 字である。現在、RD には 1,698 レコードが格納されていて、開発中である。標準的に扱っている文字以外は文字のコードとパターンを登録する必要があるが、未だ本格的に行っていない。サンスクリット語のレコード例は付録 2 参照のこと。

検索もれを生ずる危険がある。このため、データベース作成時に漢字の字体を代表字に統一したフィールドを設けている。代表字はなるべく JIS 第 1 水準から選ばれるので、出力できる文字種が限られた簡易型漢字端末でもかなりの出力ができる。たとえば JIS 外字の「研」は第 1 水準の「研」で置換される。また、原著の記述になるべく忠実な字体で入力されたデータが、字体を統一する際に変化を受けた場合には、もとのデータを別フィールドに格納している。これは芸と藝、体と體など略字体による置換えが許されるかどうか吟味を要する場合、字体を置き換えると無意味になる場合、人名などにつき原表記を知りたいときなどに必要となる。

### 5. 書誌レコード間のリンク

RD 内の書誌レコードには種々のタイプがある。すなわち、単行書に関するものとして、

- (1) 叢書名に関するレコード
- (2) 書名に関するレコード
- (3) 単行書に含まれたテーマに関するレコード
- (4) 単行書の各論文に関するレコード

があり、雑誌に関するものとして、

- (5) 雑誌の特定巻、号に関するレコード
- (6) 雑誌に含まれたテーマに関するレコード
- (7) 雑誌の各論文に関するレコード（ただし次の(8), (9)をのぞく）
- (8) 雑誌の書評に関するレコード
- (9) 雑誌の論文批評に関するレコード

がある。単行書や雑誌では論文があるテーマの下にまとめられていることがある。上記(3), (6)はこの種のテーマについてのレコードである。また(8), (9)は書評、論文批評に対するレコードで、本 RD の特徴として、ある文献に対する批評を年次を越えて調べることができる。

さて、書誌レコードのタイプ(1)-(2)-(3)-(4); (5)-(6)と(7), (8), (9)はいずれも階層関係を成し、タイプ(8), (9)は批評される単行書や論文との間に関連を有する。RD では書誌レコードのタイプを識別するためフィールド O を設けており、書誌レコード間の階層構造を知ることができる（表 1 参照）。

このようにレコードを分割するのは階層関係を簡潔に表現したいこと、書誌記述の不統一にもとづくデータベースの品質の低下を防ぐこと、またある叢書に属する図書や批評論文のレコードは時間的に遅れて発生

表 1 フィールド O  
Table 1 Field O.

フィールドOの内容	レコード種別	タイプ
0	叢書	1
1	書名/雑誌名	2, 5
2	テーマ	3, 6
3	論文	4, 7
4	批評論文	8, 9

するが、すでにデータベースにあるレコードは修正したくないためである。また、一つのボリューム（1冊の雑誌、単行書）内のテーマ、論文ごとにレコードを分割するのは、テーマ、論文、著者の個数が不定であり、レコードが大きく、複雑になるのを避けるためである。

書誌レコード間の階層構造は書誌データベースシステム MERLIN で提案され<sup>2)~4)</sup>、また国際的な書誌情報の交換用形式である UNIMARC<sup>5)</sup>でも採用されている概念であるが、いずれも図書システムのためのものである。ここで扱うのは批評論文を含む論文レベルまで、階層構造をもたせているのが特徴である。

RDでは同一ボリュームに関するレコードはCNの上位の桁は同一にしている。またその中位の桁はそのボリュームで扱われているテーマに対して一連番号が割り当てられ、下位の桁には各テーマ内の論文に対する一連番号が割り当てられる。また、中位と下位の桁がすべてゼロの場合には、そのボリュームについての書誌データであることを示す。したがって、同一ボリュームに関する書誌データはCNに対する前方一致検索により求められる。

同一ボリュームにあるとは限らないレコード間の関連として、タイプ(1)と(2)、(8)・(9)と批評される相手レコードの関係がある。RDではタイプ(2)、(8)、(9)の書誌レコードにフィールドLを設け、関連づけられる相手レコードのCNを格納している。タイプ(8)や(9)の場合には、一つの批評論文で複数の文献を批評するときがあり、この場合は複数のフィールドLを有する。

本RDではLNを用いて書誌情報を自動的に孫引きすることができる。たとえば、批評論文が批評している相手レコードを自動的に検索したり、逆にある論文に対する批評論文を検索できる。また、叢書の一巻をなすボリュームを指定して叢書名を知り、あるいはその逆の操作も可能である。

孫引きの方式を図1に示す。実線はデータの移動、点線は制御を示す。検索開始時に INCLUDE コマン

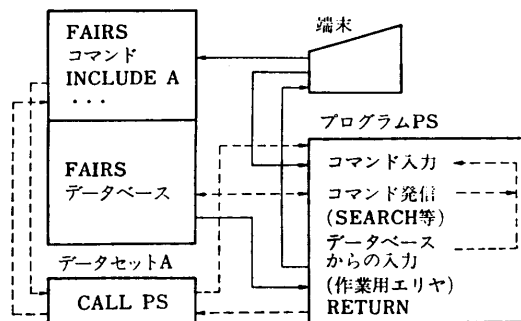


図 1 孫引きの方式

Fig. 1 Retrieval of related records.

ドでわれわれが開発したプログラム (PS と呼ぶ) に制御が移されるので、書誌情報の孫引きを行うには利用者は FAIRS の各種コマンドを入力して所要の検索集合を求める。これらコマンドは PS 内から検索システムに発信され実行される。次にわれわれが作成した PRINTD または PRINTU コマンドにより検索集合を PS の作業エリアに読み込む。さらにその内容を調べ、その結果により新たな検索を自動的に起動させることができる\*。

フィールドOの値が大きいほうのレコードから、より小さいフィールドO値をもつレコードを検索する場合を上方検索 (コマンド PRINTU)、逆の場合を下方検索 (コマンド PRINTD) と呼ぶ。以下の手順はその両者で異なる。上方検索でリンク情報がレコードを関連づけている場合の一つは批評論文レコードであり、その LN の値を CN として有するレコードを検索するコマンドを発信し、検索結果を読み込むと批評されている文献の書誌レコードである。PS が読んだすべてのレコードを作業用エリアに順次格納し、もはや検索すべき関連レコードがなくなるとその内容を並べかえて、各論文の直後に批評論文を配置して出力する。

下方検索の例として、ある論文集合に対する批評論文を検索するには PS 内ではこの集合に属する論文の CN を LN として有するレコード群を検索する FAIRS コマンド列が発信される\*\*。検索結果の排列は上方検

\* この際レコードをできるだけまとめて一度に検索する。また、応答時間を短縮するため、検索集合はユーザファイルを経由せず直接読み込む方式をとった。コマンド実行のたびに PS を呼ぶ方式も考えられるが、PL/I の環境設定のための時間が毎回必要になる。

\*\* フィールドLに対するインデックスを用いた検索が行われる。一般に批評論文はあまり多くなく、しかもインデックスによるので、このための時間は短い。なお、フィールドLによるリンクは一方であるが、これはデータベースのデータ追加時に、すでに格納されているレコードの修正を伴わないからレコード件数が多くなるとくに管理上便利なこと、われわれが採用した検索システムはデータベース作成が便利であるが、データ修正は能率的でないためである。また、これよりもさらに複雑なリンク構造をとらなくても、この種のデータベースの利用には実用上十分であろう。

索と同様である。

## 6. 排列関連情報とその活用

冊子体で刊行されてきた東洋学文献類目では利用者が所要の主題領域の書誌を速やかに探せるよう、排列に種々の配慮がなされてきた。そのため RD には書誌の排列に必要な情報も格納されているが、これらは文献の主題その他を明確にする重要な手掛りとなるので、検索上からも利用価値が高い。この種の情報を有することも RD の特徴である。排列関連情報には次のものがある。すなわち、分類コード(B)、地域コード(C1)、時代コード(N3, N4)、事項コード(C7)、内容コード(C8)、ただし括弧内はフィールド名である。

### 6.1 分類コード、地域コード

分類コードは論文等が扱っている分野を示すもので、分野を指定して検索するのに有効である。分類コードの上位の桁は大分類(宗教、芸術など)、下位の桁は小分類(道教、彫刻など)を意味する。冊子体では分類コード順に排列される。

分類コードが同一の書誌レコードを排列するのに地域コードが用いられ、上位の桁は国を、下位の桁は地方を示す。特定地域に関する検索に有効である。

### 6.2 時代コード

時代コードにはA, B, C, Dの4タイプがあり、その意味とコードの一部をなす属性文字を表2, 3に

表2 時代コード  
Table 2 Period code.

タイプ	内容	属性の有無
A	時代区分指定	なし
B	王朝指定	あり
C	年指定	あり
D	世紀指定	あり

表3 時代コードの属性と利用  
Table 3 Attribute and use of period code.

属性	意味	フィールド	
		N3	N4
E	全期間	$y_1$	$y_2$
F	年頃	$y_1$	$y_2 = y_1$
G	初期	$y_1$	$y_1 + (y_2 - y_1)/3$
H	前半	$y_1$	$y_1 + (y_2 - y_1)/2$
I	中期	$y_1 + (y_2 - y_1)/3$	$y_2 - (y_2 - y_1)/3$
J	後半	$y_1 + (y_2 - y_1)/2$	$y_2$
K	末期	$y_2 - (y_2 - y_1)/3$	$y_2$

示す。タイプAは概論、通史、古代、中世、近世、近代、現代を区別するコードである。タイプBは中国とその周辺諸国の王朝ごとにつけられた一意のコードで、この指定により対応する王朝の始まりと終りの年を知ることができる。タイプC, Dの年や世紀は数字で表される。ただし紀元前の場合は年数に10,000を加算し負数にならぬようにしているので、文字列として大小比較ができる。

一般に歴史に現れるデータは、あいまい性を有することが多いので、属性により論文が扱っている年代の範囲をある幅をもって表現するよう配慮した。時代をしめすデータはタイプ、コード、属性で表現され、地域コードとともにフィールドCに格納される。たとえば、11C+F1876は地域コード11(中国)、Fは属性で対象が1876年頃であることを意味する。すなわちタイプCとFの組合せは与えられた年またはその前後を示す。またCとG, H, I, J, Kとの組合せはたとえば1930年代前半のようにコードが示す年代についての属性を意味する。

しかし、検索のためには各コードを分離したほうが便利であるから、地域コードはフィールドC1に格納し、時代コードはそれが示す年の範囲すなわち上限、下限の値 $y_1$ ,  $y_2$ をとり出し、属性により表3のように対象とする年の範囲の目安を作りフィールドN3, N4に格納している。タイプA, Bについては時代区分、王朝コードに対し、その始まりと終りの時期や年の定義表を用いてN3, N4を作成している。利用者はこれらのフィールドを用いて当該時代の文献を検索できる。ただし、これらの値はあくまで検索の便宜から設定された年数であり、たとえば時代をいかに区分すべきかを主張しているものではない。

### 6.3 事項コード、内容コード

群経、諸子など若干の分類コードを有するレコードは冊子体では事項コード順に排列される。このコードは作家を指定した検索で用いられる。また内容コードは書誌の性格を示すコードで、一般論説文、辞書・書目・年表、学会・会議関係記事、論集・全集・叢書などを識別する。

以上、本節で述べた情報を検索に活用すると、地域、時代、作家などに関する研究動向などを窺う手掛りとなりうる。また通常のキーワード、ソーラスを利用した検索法より事柄によっては、よりの確な検索が可能となろう。検索例は付録2参照のこと。

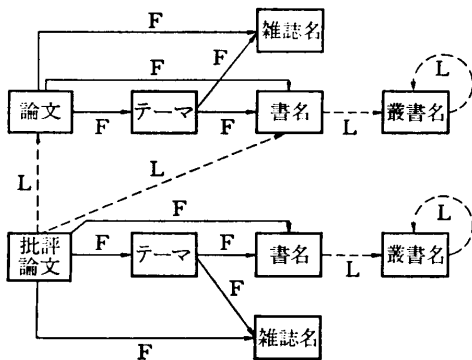
## 7. 定義ファイルの利用

書誌データ作成の際には上述のように各種コードを使用しているが、利用者が手軽に使えるにはコードの意味を出力する必要がある。このためコード種別ごとに定義ファイルを設け、データベース作成時にこれを参照し文字列に変換することにより書誌データ入力量を減らし、また表記の不統一や誤りを防止するのに役立つ。

## 8. 冊子体目録の作成

冊子体の東洋学文献類目は、和中文、欧文の目録部分と雑誌一覧、人名・団体名索引から成る。冊子体目録を作成するには、まず RD に格納された目録データをファイルに出力し、これを出発点として冊子体に編集すればよい。

東洋学文献類目では、分類、地域、時代、事項、内容のコードの順で昇順に排列されるのが普通であるが、分類コードによっては著者順、学者名順に排列するときもあり、排列規則が複雑である。そこで検索集合をファイルに出力するまでに検索システムのコマンド群により、排列規則に従ってレコードを排列しておく。本 RD では書誌レコードは表 1 に示すように分割され、一つの論文や単行書の書誌情報とその批評論文レコードは散在しているの、これらを集めて適当な順序に出力する必要がある。これは会話的に検索する際には上述の孫引き機能で行いうるが、多数の目録データにつき実行するには効率が問題となる。したがって、バッチ処理により冊子体目録を作成できるようにした。目録レコードは叢書名、書名、雑誌名、テーマ名、論文名(批評論文を含む)レコードに分類されるが、それらの関連を図 2 に示す。



L: LN による関連, F: CN の前方一致による関連

図 2 レコード間の関連

Fig. 2 Relation between records.

冊子体形式に変換する過程は次のとおりである。

(I) 各レコードは処理に便利な形式に変形され、排列のために必要な制御情報エリアを付加し、CN, LN のほか、後述のレベル番号 (LEV), 批評指示 (REV), 排列番号 (SN) の記入のために使用する。

まずファイル内にある検索集合を読み、一連番号を制御情報エリアの SN に記入する。次に互いに関連づけられた叢書名と書名のレコードに対し、叢書名レコードを複製して書名レコードの直後に配置し、書名レコードの SN を複製されたレコードの SN にも記入する(以下の複製でも同様)。次に各論文レコードに対し、その論文が属するテーマ名、書名または雑誌名、叢書名の各レコードを複製して、論文レコードの直後に配置する。もとの書名(論文)レコードおよびそれに付加されたレコードを書名(論文)レコード群と呼ぶ。ただし、批評論文の場合は批評論文レコード群と呼ぶ。

次に、各批評論文レコードの LN を利用して、論文レコード群の直後に批評論文レコード群を複製して配置する。レコード群のなかでのレコードの順序づけを行うため、レコードの複製・配置が行われるたびに値が増加する変数 LEV を用い、制御情報エリアに記入する。また、批評論文レコード群の複製については制御情報 REV の値により、それ以前の複製と区別する。

(II) 以上の操作が終わると、レコード群を SN, REV および LEV の昇順に排列すると、レコード群の内の順序づけがされ、各論文レコード群のあとに批評論文レコード群を配置でき、検索システムよりファイル出力された順序で論文や書名のレコード群が排列される。あとは必要なレコード群、フィールドを順に出力すればよい。論文レコード群とそれに引き続く批評論文レコード群を一つのレコードとして出力すると論文が一覧され、書名または雑誌レコード群に対して同様のことを行えば書名、雑誌が一覧される。

## 9. むすび

本論文は京都大学大型計算機センター開発計画で進行中の東洋学文献類目のデータベースにつき特徴や処理法につき述べた。漢字の扱い、階層構造の表現、批評論文その他の孫引き検索、冊子体編集などに関する開発結果は今後研究者用データベースを開発する際に役立つと考えている。なお、データベース中の特殊な漢字については利用者にコード表を配布する予定であ

る。われわれが行った例については文献 7) 参照のこと。

**謝辞** 本研究を進める上で種々ご援助をいただいた方々、とくに京都大学大型計算機センターの村尾、河野、桶谷の各氏、京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センターの都築、志水両司書、富士通 FAIRS 開発関係者、さらに適切など指摘をいただいた査読者に謝意を表します。

### 参 考 文 献

- 1) 富士通: FACOM OS IV FAIRS-I コマンド文法書 No. 70 AR 3181, 70 AR 3182 (1982).
- 2) Hopkinson, A.: MERLIN for the Cataloguer, *ASLIB Proc.*, Vol. 29, No. 8, pp. 284-294 (1977).
- 3) Noerr, P.L. and White, M.C.: MERLIN Design of a National Bibliographic Database, in Lockemann, P.C. and Neuhold, E.J. (eds.), *Systems of Large Data Base*, pp. 211-222, North-Holland, Amsterdam (1976).
- 4) Ross, J. and Royan, B.: MERLIN: A New Computer System for the British Library, *Program*, Vol. 10, No. 3, pp. 95-102 (1976).
- 5) UNIMARC Universal MARC Format, IFLA International Office for UBC, London (1977).
- 6) 富士通: FACOM OS IV JEF 解説書 No. 64 SG-9000-1 (1980).
- 7) 星野 聡, 三重まゆみ, 勝村哲也: データベース CHINA 2 について, 京都大学大型計算機センター広報, Vol. 16, No. 3, pp. 122-127 (1983).

### 付録 1 フィールドの一覧表

おもなフィールドの種類と内容を付表 1 に示す。フィールド A, R, T などは字体を字種により統一化しており, A1, R1, T1 は統一化していない字体の漢字フィールドである。

### 付録 2 RD の検索例

(1) 上方検索の例: 太平天国の乱につき検索しようとし, 年代は 1850~1864 年, 地域は中国と指定した場合を付図 1 に示す。

付表 1 主要フィールド一覧  
Table A.1 Partial list of fields.

フィールド名	内 容
BANGO	コントロール番号
A, A1	著者名 (漢字)
A2	同上 EBCDIC
B, B2	分類コードとその漢字表現
C	地域・時代等コード
C1, C2	地域コードとその漢字表現
N3, N4	時代コード (上, 下限)
C7	事項コード
C8	内容コード
E	出版社, 出版地 (漢字)
E2	同上 EBCDIC
F	著者名 (カナ)
J	雑誌名
L	リンク番号
O	階層コード
R, R1	評 者
S	叢 書 名
T, T1	表題 (漢字)
T2	同上 EBCDIC
Z	著者名の排列種別

(2) 下方検索の例: 付図 2 は与えられた書名レコード (B81001900000) に対する批評論文レコード (C8100800020, A81002700001) とそれらの関連レコードの検索を示す。データベースは大容量記憶装置 (MSS) に格納されており, ステージングディスクに取り出されてから実際にアクセスされるので, 最初の応答時間は長い, ディスク上にあれば応答時間は短く, 付図 1, 2 の例では約 2 秒および 3 秒 (孫引きは 1 回および 2 回) で FAIRS コマンドの実行時間が 85% 以上を占め, 残りが検索集合の読み込みと PS 自身の実行時間である。検索は各フィールドに対して設けられた逆転ファイルを用いており, 検索コマンドの実行時間は検索システムの性能で定まるが, 付録の例では 500 ms 程度である。

(3) 表題がサンスクリット語の例を付図 3 に, 冊子体出力の例を付図 4 に示す。

(昭和 57 年 10 月 4 日受付)

(昭和 58 年 9 月 13 日採録)

```

RS: SEA N3 GE 11850 AND N4 LE 11864
+FRS1001 6 みつかりました。
RS: AND C1 EQ 110000:119999
+FRS1001 3 みつかりました。
RS: PRINTU
#0001-0 C81005900006
T Problems of strategy during the late stage of the Taiping War
T2 PROBLEMS OF STRATEGY DURING THE LATE STAGE OF THE TAIPING WAR
O 3
A Zhang, Zongzhi
A Zhang, Yiwen
A2 ZHANG, ZONGZHI
A2 ZHANG, YIWEN
A3 TR.
P 85-112
B 0130
B2 中国史
C 11C+F1856XX1
C1 110000
C2 中国
C5 紀元後1856年
C5 ~年
N3 11856
N4 11856
Z 4
Z 4
#0001-1 C81005900000
O 1
J S S C.
K 2
G 2
D 1981
#0002-0 A81009700004
T1 咸豊初期團練の成立について
T 咸豊初期團練の成立について
O 3
A 目黒 克彦
P 44-56
B 0130
B2 中国史
C 11C+G1850XX1
C1 110000
C2 中国
C5 紀元後1850年
C5 初期
F ムクダ カサヒコ
N3 11850
N4 11852
Z 1
#0002-1 A81009700000
O 1
J 集刊東洋学
K 46
D 1981(10)
#0003-0 B81007800000
T1 太平天国史研究文選一(廣西・1951-1980)一
T 太平天国史研究文選一(廣西・1951-1980)一
T2 (.1951-1980)
O 1
A1 廣西太平天国史研究会//編
A 廣西太平天国史研究会//編
E 廣西人民出版社//南寧
P 359
D 1981(1)
H A5
B 0130
B2 中国史
C 11C+F1851:+F1864XX5
C1 110000
C2 中国
C5 紀元後1851年
C5 ~年
C5 紀元後1864年
C5 ~年
N3 11851
N4 11864
Z 7

```

付図1 上方検索 Fig. A.1 Upward retrieval.

```

RS: SEA BANGO EQ B81001900000
+FRS1001 1 みつかりました。
RS: PRINTD
#0001-0 B81001900000
T1 日本神話と中国神話
T 日本神話と中国神話
O 1
A 伊藤 清司
E 学生社//東京
P 279
D 1979(9)
H A5
B 1440
B2 神話・伝説・口承文芸
C 11A0XX1
C1 110000
C2 中国
C5 概論
F イノチシ*
Z 1
#0001-1 C81000800020
O 4
A2 SHACKLE, C.
R S h a c k l e, C.
P 186-187
L B81001900000
L B81002000000
Z 4
#0001-2 C81000800000
O 1
J B S O A S.
K 44
G 1
D 1981
#0001-2 B81002000000
T1 西周青銅器とその國家
T 西周青銅器とその國家
O 1
A 松丸 道雄//編
E 東京大学出版会//東京
P 460
D 1980(6)
H A5
B 1330
B2 金文
C 11BE071XX1
C1 110000
C2 中国
C5 西周
C5 全期間
F マツル ミチオ
N3 08866
N4 09250
Z 1
#0001-1 A81002700001
O 4
R 大林 太良
P 75-80
F オオハヤシ タリョウ
L B81001900000
Z 1
#0001-2 A81002700000
O 1
J 史学雑誌
K 90
G 9
D 1981(9)

```

付図2 下方検索 Fig. A.2 Downward retrieval.

```

#1 BANGO D81005900000
T V†-a l m†-i k i' s S a n s k r i t
T2 VALMIKI'S SANSKRIT

```

付図3 サンスクリット語レコード (番号、表題のみ出力)

Fig. A.3 A record with Sanskrit title.

日本神話と中国神話 伊藤 清司 学生社 東京 279P. 1979年9月 A5 (REV.)大林 太良 75-80P. 史学雑誌 90巻 9号 1981年9月 S h a c k l e, C. 186-187P. B S O A S. 44巻 1号 1981年

付図4 冊子体出力の例 Fig. A.4 Example of catalogue.